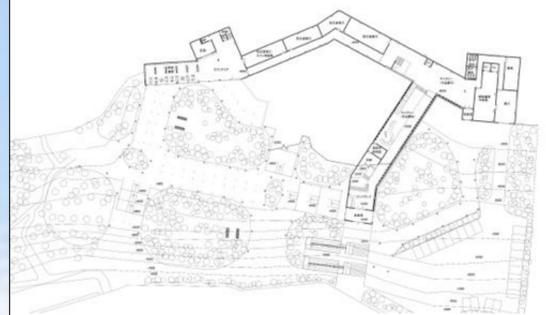


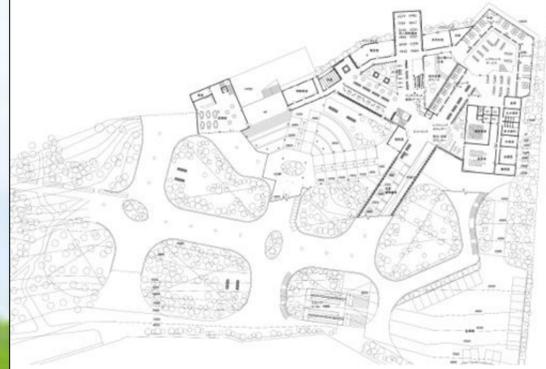
# 避難所と応急仮設住宅の機能を有した公共施設の提案

避難所は今大きな問題を抱えている。災害が発生すると避難所が開設され、避難者が集まる。しかし長期化する避難生活の中で、多くの人は避難所や待機所をたらい回しにされる。この背景には避難所の狭隘化や施設の業務回復に伴う避難所の解消・集約、仮設住宅の敷地確保の難航等が挙げられる。たらい回しによる環境の変化は被災者間に生まれたコミュニティを破壊し、引きこもりや孤独死を引き起こす。

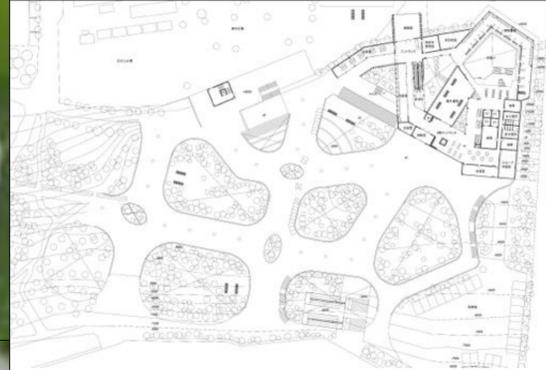
東京で巨大地震が起こった場合、避難所の狭隘化はもっとも深刻な問題である。さらに大量の仮設住宅を建設する敷地も無い。では公共施設や公園内にあらかじめ避難所としての機能や、仮設住宅建設用地を組み込むべきではないだろうか。本研究では避難所と仮設住宅の機能を有した可変的な公共施設を設計・提案する。



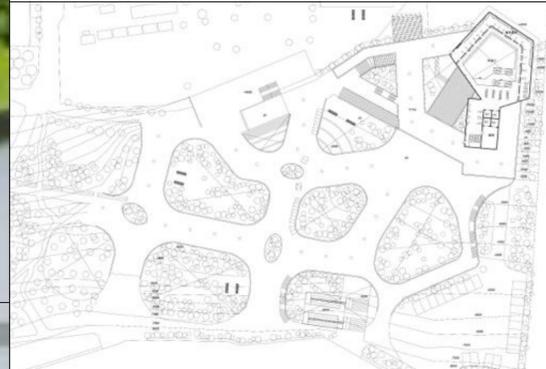
平常時 1/1000 地下1階平面図



平常時 1/1000 1階平面図



平常時 1/1000 2階平面図



平常時 1/1000 3階平面図

## 1.コンセプト

本提案は世田谷区代田にある梅丘図書館及び羽根木公園に、災害時の避難所と仮設住宅の機能をあらかじめ組み込んだものである。普段は区立図書館及び公園として地域住民に親しまれるが、災害が発生すると施設全体が収容避難所及び広域避難場所(一時集合所)として変化し、その後仮設住宅としての利用に移行する。

■ Entrance



■ Computer room



■ Terrace①



■ Terrace②



平常時 1/1000 断面図

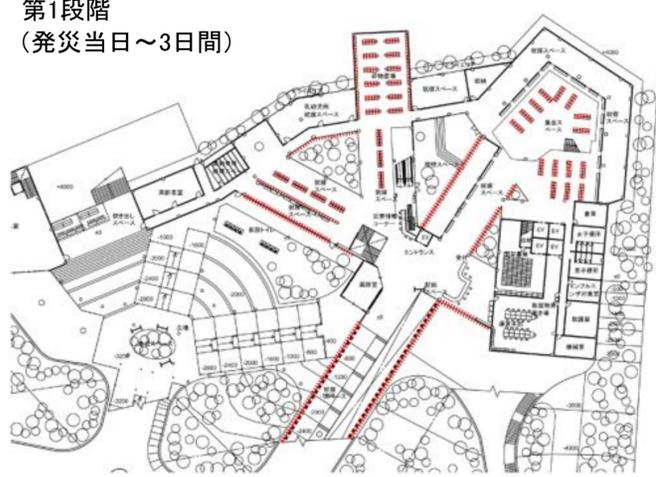
所在地: 世田谷区代田 階数: 地下1階,地上3階  
用途: 図書館・公園 敷地面積: 79,650.71㎡  
構造: S造(一部RC造) 建築面積: 7,800㎡





# 災害後の施設の変化

第1段階  
(発災当日～3日間)



収容人数:	1,500人
役割:	収容避難所、広域避難場所、一時集合所
必要スペース:	運営本部、受付、救護室、インフルエンザ対策室、炊き出しスペース、配給スペース、就寝スペース、集会スペース、荷捌きスペース、仮設トイレ
解決する問題:	物資の不足
保留とする問題:	スペースの不足、ライフラインの停止、体調の悪化、プライバシーの問題、セキュリティの低下

第1段階では、図書館から避難所へと変化する。例えば図書館の事務室として使用されていたスペースは運営本部に、貸出・レファレンスカウンターとして使用されていたスペースは避難所の受付に変化するなど、各スペースが避難所としての仕様に転換する。書架は安全確認後、就寝スペースとして開放され、屋外広場は多くの避難者が身を寄せる空間となる。



第1段階 就寝スペース 平面図(一部)

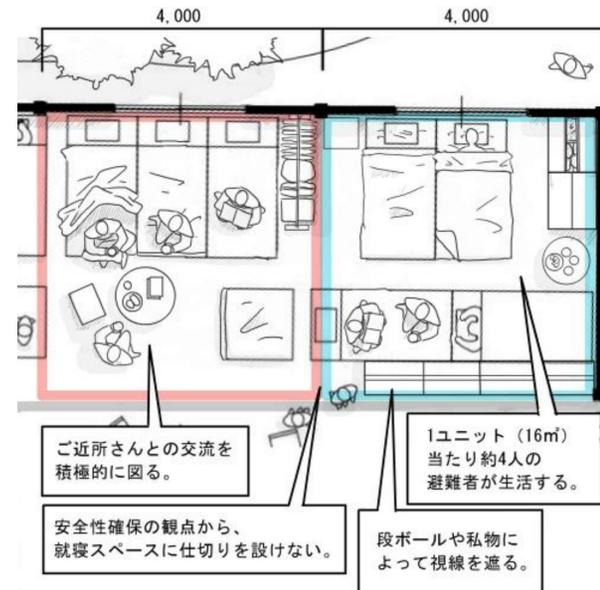


第2段階  
(発災4日後～1週間後)



収容人数:	1,000人
役割:	収容避難所
必要スペース:	運営本部、受付、救護室、インフルエンザ対策室、炊き出しスペース、配給スペース、就寝スペース、集会スペース、荷捌きスペース、仮設トイレ
解決する問題:	物資の不足、スペースの不足、体調の悪化
保留とする問題:	ライフラインの停止、プライバシーの問題、セキュリティの低下

第2段階では、避難者に体を安らげる空間を提供することを目標としている。そのため公園内に仮設空間を建設し、就寝スペースを拡張する。また、仮設浴室を設置し、避難者が順番に入浴できるような環境を整える。第1段階まではテントを被せるのみだった簡易的なマンホールトイレも、徐々に強固な仮設空間を建設し、プライバシーの守られた空間へと変化させる。

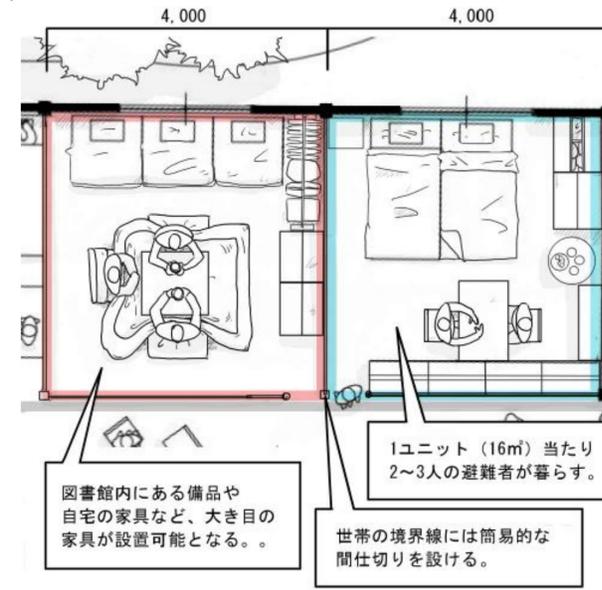


第3段階  
(発災1週間後～1ヶ月後)



収容人数:	670人
役割:	収容避難所
必要スペース:	必要なスペース:運営本部、受付、救護室、インフルエンザ対策室、炊き出しスペース、配給スペース、就寝スペース、集会スペース、荷捌きスペース、仮設トイレ、ボランティア控室、浴室
解決する問題:	スペースの不足、体調の悪化、プライバシーの問題、セキュリティの低下、物資の不足、
保留とする問題:	ライフラインの停止

第3段階には、余震が多少落ち着くと考えられる。そのため広域避難場所や一時集合所としての役割を解消し、避難所内で寝泊まりするメンバーを安定させる。避難者一人一人の占有空間を少し充実させ、プライバシーの確保された空間を提供する。



※仮設パーツ設置位置は赤色で示す

第4段階  
(発災1ヶ月後～2年後)



収容人数:	500人
役割:	仮設住宅
必要スペース:	受付、住居スペース、集会室、集会スペース、インターネットコーナー、カフェコーナー、書架スペース
解決する問題:	物資の不足、スペースの不足、体調の悪化、ライフラインの停止、プライバシーの問題、セキュリティの低下
保留とする問題:	なし

第4段階では、これまで避難所として使用されていた施設が、仮設住宅としての利用へと転換する。第3段階までは簡易的な仕切りだった壁も、厚い壁へと変化し、プライバシーの守られた“個の空間”へと変化する。仮設住宅居住者の減少に伴い、徐々に共有スペースを充実させる。発災2年後には仮設住宅の利用を解消し、再び図書館及び公園としての利用に戻る。

